

### 3. 日本の歴史（１）

---

日本の歴史の大きな特徴として、次の点を挙げることができる。

- ①原始の時代から現代まで、1 万年の間、在来文化を一変するような他民族との大規模な融合がなく、独自の文化を守り続けていること
- ②その一方で、古くから外国の文化を熱心に取り入れて日本化し、文明の一流の水準に達していること

#### 原始・古代（およそ 1 万年前~紀元後 11 世紀）

しょうこく らんりつ 小国の乱立、国土の統一を経て、中国の制度に範をとった律令国家りつりょうこっかが成立する。しかし、次第にその矛盾が広がって地方政治が乱れ、武士団ぶしだんが成長していく。

・縄文時代じょうもん、日本列島には洪積世こうせきせいの時代から人間が生活していたが、日本人種および日本語の原型が成立したと見られているのは、およそ 1 万年前から紀元前 3 世紀ごろまでの縄文期である。当時の人々は、数人から 10 人が 1 戸の整式住居せいしきじゅうきょに住み、生活を狩猟しゅりょう、漁労ぎょうろう、採集たよに頼り、貧富ひんぷ・階級差かいきゅうさのない社会を構成していたと言われていたが、青森県の三内丸山遺跡で長「期的に営まれた大規模な集落が発掘はっくつされ、イメージの転換がせまられている。

・弥生時代<sup>やよい</sup>、紀元前 3 世紀ごろ、朝鮮から九州北部に稲作<sup>いなさく</sup>と金属器使用<sup>きんぞくきしよう</sup>の技術が渡来した。

稲作技術<sup>いなさくぎじゆつ</sup>は、生産を増大し、貧富・身分の差を生み、農村共同体を政治集団化するなど、画期的な社会変化をもたらした。農耕<sup>のうこう</sup>に伴う<sup>ともな</sup>信仰<sup>しんこう</sup>、儀礼<sup>ぎれい</sup>、習俗<sup>しゅうぞく</sup>なども広がり、日本文化の原型が形作られた。弥生時代<sup>やよい</sup>は紀元後 3 世紀ごろまで続き、後期には東北地方にまで及んだ。

・古墳時代<sup>こふん</sup> 紀元後 4 世紀半ばごろ、乱立していた小国が大和政権によって統一された。

統一の進展とともに、前方後円墳によって代表される古墳<sup>こふん</sup>が地方に広まった。この時代は中国から多くの知識、技術が流入した時代で、4 世紀に大和政権<sup>やまとせいけん</sup>は朝鮮半島へ進出して、大陸の高度な物質文化を輸入し、5 世紀には朝鮮半島から渡来人<sup>てつきせいさん</sup>が鉄器生産<sup>せいとう</sup>・製陶<sup>はたお</sup>・機織り<sup>きんぞくこうげい</sup>・金属工芸<sup>どぼく</sup>などの諸技術を伝え、中国の文字である漢字の使用も始まった。6 世紀<sup>じゆきよう</sup>に儒教の摂取が本格的になり、仏教も伝来した。

7 世紀に聖徳太子<sup>しょうとくたいし</sup>が政治の刷新を図り、大化の改新を契機に、天皇を中心とした中央集権国家の建設を目ざした。この場合も、中国の隋、唐を手本にしたが、このころから大陸文化の摂取にさらに積極的になり、9 世紀末までに遣唐使<sup>いしょうし</sup>、遣唐使<sup>けんとうし</sup>を 10 数回も派遣<sup>はけん</sup>することになる。

## 4. 日本の歴史（2）

---

・奈良時代 710 年に都を平城京(今の奈良市および近郊)に定めて律令国家の隆盛期

を迎えるが、農民の窮乏、浮浪民の増加、荘園の拡大による公地公民制の事実上の崩壊など、矛盾が出はじめる。この時代は国が仏教を厚く保護したため、仏教文化、とりわけ仏教美術が栄えた。日本最初の仏教文化である 7 世紀初めの飛鳥文化、人間的な若々しさに特色がある 7 世紀後半の白鳳文化、唐の最盛期の文化の影響を受け、写実的で豊かな人間感情を示す 8 世紀中期の天平文化などがそれである。

仏教美術と並ぶ、この時代の文化上の金字塔は「万葉集」である。『万葉集』は 8 世紀半ばまでの約 400 年間の、庶民から天皇に至る約 4500 首の歌を集めた歌集で、上代日本人の素朴な生活感情が率直に表現され、今でも多くの日本人に愛されている。このほか、現存する最古の歴史書『古事記』(712 年)、最古の勅撰歴史書『日本書紀』(720 年)、最古の漢詩集「懷風藻」(751 年)などもこの時代の遺産である。

・平安時代 8 世紀末に平安京(今の京都市)へ都を移し、律令体制の再建を図ったが、公地公民制が崩れて国家は財政難に陥った。894 年を最後に遣唐使を中止したので、大陸文化の大量輸入も途絶えた。

10～11 世紀に藤原氏が政權を独占し、<sup>しょうえん</sup> 莊園を<sup>けいざいてきばん</sup> 経済的基盤として<sup>ぜんせい</sup> 全盛を<sup>ほこ</sup> 誇るが、地方政治の混乱によって治安が乱れ、武士団が成長していった。11 世紀末に<sup>ふじわらし</sup> 藤原氏に対して院政が始まると、武士が中央政界に進出してくる。

安時代は<sup>こくふうぶんか</sup> 国風文化を特色とする。9 世紀にはまだ<sup>とう</sup> 唐の影響を受けて、密教と漢文学の弘仁・貞観文化が栄えたが、大陸との直接交流がなくなった 10 世紀以降になると、日本独特の貴族文化が生まれる。その代表が最初の<sup>ちよくせんわかしゅう</sup> 勅撰和歌集『<sup>わかしゅう</sup> 古今和歌集』(10 世紀初め)、世界最古の<sup>ちやうへんしょうせつ</sup> 長編小説『<sup>げんじもの</sup> 源氏物語』(11 世紀初めごろ)、随筆『<sup>ご</sup> 枕草子』(1000 年ごろ) などの<sup>ぶんげいさくひんぐん</sup> 文芸作品群である。これらの作品は、漢字から日本人が独自に作り出した「<sup>か</sup> 仮名」で書かれており、<sup>かんせいいてき</sup> 感性的な和語を書き<sup>わ</sup> 表す<sup>ご</sup> 「仮名」の<sup>か</sup> 発明が<sup>あらわ</sup> あって初めて生まれたものである。

「仮名」の出現により、女性の文学の世界への進出は目覚ましかった。

仏教は現世利益を図る密教とともに、10 世紀後半から来世での幸福を説く<sup>じやうどきやう</sup> 浄土教が流行した。<sup>けんちく</sup> 建築・<sup>かいが</sup> 絵画・<sup>しょ</sup> 書・<sup>ちやうこく</sup> 彫刻など、美術・工芸面でも国風化の傾向が著しかった。